

9 看護局業務

(1) 看護局ミッション

地域住民の健康な生活を支え、地域に根ざし信頼される看護を提供します。

(2) 看護局ビジョン

- 1 信頼される医療の提供
患者さん、地域の方にとって信頼される安心な医療を提供するとともに、患者さん中心の看護を探求します。
- 2 円滑な組織運営
組織は人なりという考え方に立ち、組織人として期待される責務を果たすという信頼関係を基盤に、チーム医療や業務改善を推進して、円滑な組織運営の共創に努めます。
- 3 自律した看護師の育成
相互に人を大切に、共に育つようキャリア形成を支援し、主体的に学び行動する自律した看護師の育成を目指します。
- 4 ワークライフバランスの促進
仕事と生活を両立して働き続けられる環境を築き、良質な人材を確保して、質の高い安定した看護の提供につなげます。

(3) 令和元年度 看護局目標

- 1 安全で安心な看護の提供
- 2 円滑な病床管理
- 3 教育体制の充実
- 4 魅力ある職場環境づくり

(4) 令和元年度 看護局目標評価

1 安全で安心な看護の提供

患者個々のニーズに合わせた看護の実践のため、ヘンダーソン看護論に沿った標準看護計画の整備、および看護手順の見直しに取り組んだ。また褥瘡・摂食嚥下・NST・認知症ケアの各リンクナースを中心に、急性期及び高齢者看護ケアの質向上を図った。

他職種と安全で安心な療養環境の共創として、看護補助者の夜間配置を実施し看護補助者との連携を図り業務を進めている。また「足柄式看護提供方式」の運用基準を作成し、看護師がベッドサイドに長くいられる体制を整備した。

入院前から退院を見据えた看護システムの構築については、入退院支援の強化として退院支援カンファレンスの定着、また病棟看護師が責任をもってケアマネジャーとの連絡調整を実施する連携業務を手順化した。また入退院支援リンクナースが地域の訪問看護ステーションで訪問看護師のシャドウイング研修を実施し、当院の退院支援の課題を理解し看護実践に活かすことができた。

2 円滑な病床管理

適切な病床運営により病床利用率の向上を図った。「断らない救急」の実現のため、地域包括ケア病棟を活用しながらスムーズな救急および入院受入れ体制を構築した。また各病棟では足柄式看護提供方式を運用し、どの病床でも患者を受け入れるという方針のもとベッドコントロールを行った。また重症度、医療・看護必要度を意識したベッドコントロールにも取り組み、各病棟が看護必要度の基準を満たすよう適切な病床管理を行った。

3 教育体制の充実

平成 30 年度に作成した「足柄式教育体制」による共有文化の醸成に取り組んだ。スタッフが「足柄式教育体制」を理解し OJT で指導を担える人材となれるよう、フレッシュペア研修を見直し足柄式教育研修として実施した。また、平成 30 年度に作成した「看護師教育支援ガイド」に基づいてセクションで OJT による研修の支援計画を実施した。これらの結果、各セクションで「共有」を意識した実践と体制作りが進み、新卒新採用者の離職はなかった。

またeラーニングを活用した学習では、セクションやリンクナース会議、看護補助者研修等において、それぞれの課題に応じた講義動画を選択して、知識の習得や確認をした。この結果eラーニングのアクセス数は昨年度に比べてほぼ倍増し、新人からベテランまで看護実践から看護研究などに幅広く活用できた。

4 魅力ある職場環境づくり

看護職員の確保対策充実のため、看護学生インターンシップの開催、実習環境の整備、就職説明会への参加と学校訪問などに取り組んだ。インターンシップでの看護師のシャドウイングは学生から高い評価を得、就職内定者のうち約半数はインターンシップ参加が就職先決定に影響を与えていた。また臨地実習では、実習目的や学生の到達度のスタッフへの周知、指導日誌の充実と活用を推進して実習環境を整え、教員や学生から高い評価を受けた。

ワークライフバランスの充実を推進するため、働きやすくやりがいを実感できる職場環境の整備に取り組んだ。ストレスチェックの集団分析結果をもとに各セクションが業務改善に取り組み、看護師一人当たりの月平均の超過勤務時間を減らすことができた。また夜勤拘束時間の短縮に向けた14時間夜勤の試行、勤務インターバル確保に向けた取り組みとして、3連続夜勤回数の削減、正循環、2交代夜勤への移行を試みた。

働き方改革推進のひとつとして、職員の意識変革を進めるためにヘルシーワークプレイスの考え方を理解する研修会を開催した。労働安全衛生ガイドライン及びヘルシーワークプレイスの概要と取組みを概ね理解することができ、自分自身の働き方を考えるきっかけとなった。

(5) 看護外来業務

ストーマ外来では、皮膚・排泄ケア認定看護師が中心となり、人工肛門や人工膀胱を持つ患者・家族に対して、日常生活に関わる相談、またトラブルが起きないように予測して対応している。患者が“自分らしさ”を大切にしながら日常生活を送れるためのサポートをしている。

区分 年度	ストーマ外来（人）
平成 29 年度	169
平成 30 年度	214
令和元年度	179

(6) 令和元年度研修・実習実績

院内研修実績

<キャリアラダー ステップ研修>

段階	要素	研 修 名		目的・目標	方 法	人数
ステップⅠ	実践	看護過程Ⅰ		患者を生活者として捉えるために、情報の分類・整理の方法がわかる 指導を受けながらアセスメントの考え方がわかる	講義、GW	16
	管理	メンバーシップ研修		チームメンバーの一人としての自己を振り返り、今後の取組みを見出す	シャドウイング	16
ステップⅡ	実践	看護過程Ⅱ		根拠に基づいた看護過程の展開ができる	事例展開	18
	教育	後輩育成Ⅰ		後輩に関心を持ち、関わることができる	講義、GW	19
	管理	リーダーシップ研修		リーダーシップ能力を養う	シャドウイング	17
ステップⅢ	実践	看護過程Ⅲ		看護実践力を養う	事例展開	7
	教育	後輩育成Ⅱ		後輩のレディネスに応じて関わる能力を養う	講義、GW	11
	管理	問題解決Ⅰ	医療安全	問題解決に向けた基礎的能力を養う 安全な医療を提供するため、医療事故防止に対する知識・技術を高め、組織の一員として医療事故防止における役割がとれる	講義、GW	2
			問題解決・リーダーシップ	問題解決に向けた基礎的能力を養う 看護管理に必要な知識を理解し、実践で活用することができる	講義、GW	2
	倫理研修		看護実践における倫理的問題の解決に向けた基礎能力を養う	講義、事例展開、GW	5	
ステップⅣ	実践／教育／管理	問題解決Ⅱ		看護局内の問題解決を通して問題解決能力を養う 問題解決に多職種を巻き込みながら、取り組むことができる	交流研修、問題解決過程の展開	3
ステップⅤ	実践／教育／管理	問題解決Ⅲ		組織の目標達成に向けて、問題解決の過程を実践し、看護管理能力を養う	交流研修、問題解決過程の展開	0

<役割研修>

研修名	目的・目標	方法	人数
フレッシュペア研修 (足柄式教育研修)	当院の看護師教育支援ガイドに基づき、教育支援体制を理解する 新人看護師教育を行う上での自らの役割を理解する	講義、GW	31
新主任研修	主任看護師の役割を理解し、役割遂行に向けた自己の課題を明らかにする	シャドウイング、GW	3
新看護科長代理研修	看護科長代理の役割を理解し、役割遂行に向けた自己の課題を明らかにする	シャドウイング、GW	5

<新採用者研修>

研修名	目的・目標	方法	人数
新採用看護職員 採用時研修	病院の組織・環境・業務に早く適応できるよう、当院の概要を知る 専門職業人としての自覚を持つ 安全な看護実践のための具体的な方法を学ぶ	講義・演習・GW	16
急変時の対応	急変の前兆に気づき、必要な初期対応がわかる	講義・演習	16
リフレッシュ研修	2ヶ月間の体験を振り返り、気持ちをリフレッシュし、今後への意欲がもてる	グループディスカッション	16

<オープンセミナー>

研修名	開催日	講師	人数 (院内)	人数 (院外)
がんの痛みを考えよう！ ～基礎編～	10月25日	がん性疼痛看護認定看護師 善波いづみ	5	2
がんの痛みを考えよう！ ～薬剤編～	11月22日	がん性疼痛看護認定看護師 丸岡陽子	3	2
がんの痛みを考えよう！ ～総集編～	1月24日	がん性疼痛看護認定看護師 香川仁美	9	2

学会・院外研修参加実績

<学会参加>

学 会 名 (分 野)	開催地	開 催 日	人数
日本クリティカルケア看護学会 学術集会	別府	6月15日、16日	1
日本看護学会 看護教育学術集会	和歌山	8月8日、9日	1
日本地域看護学会 学術集会	横浜	8月17日、18日	1
日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会	長野	9月19日、20日	1
日本母性衛生学会	千葉	10月11日	1
日本手術看護学会	岡山	10月11日、12日	1
日本看護学会 看護管理学術集会	名古屋	10月23日、24日	1
全国自治体病院学会	徳島	10月24日、25日	1
日本死の臨床研究会年次大会	神戸	11月3日、4日	1
日本認知症学会 学術集会(第38回)	東京	11月7日～9日	1
日本看護サミット 2019 訪問看護サミット 2019	神奈川	12月6日	2
日本クリニカルパス学会学術集会	熊本	1月17日、18日	1
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	静岡	2月22日、23日	1

<長期研修派遣>

受 講 分 野	日 程	人数
保健師助産師看護師実習指導者講習会 国際医療福祉大学小田原キャンパス	8月～12月	1
認定看護師教育課程 認知症看護コース 聖路加国際大学 教育センター 生涯教育学部	6月～3月	1
特定行為研修春期入学コース 日本看護協会 看護研修学校	4月～9月	1
家族看護学 CNS コース 東海大学大学院健康科学研究科	(研修中) ～3月	1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	4月～9月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 神奈川県看護協会	10月～3月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 昭和大学看護キャリア開発・研究センター	6月～9月	1
医療安全管理者養成研修 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	10月～1月	1
医療安全管理者養成研修 神奈川県看護協会	9月～10月	1

<神奈川県看護協会>

会場：神奈川県総合医療会館

研 修 名	日 程	人数
看護実践に活かせるフィジカルアセスメント	7月25日	1
在宅から見る退院支援	7月23日	1
学んでみよう災害看護 ～その時あなたはなにができますか～	7月24日	1
高次脳機能障害の理解と生活再生構築に向けた看護	9月24日	1
高齢者支援と認知症患者の看護	8月26日、27日	1
高齢者支援と認知症患者の看護	1月24日、27日	1
インターネット配信研修 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	8月6日、7日	1
事例から学ぼう褥瘡ケアの実際	1月10日	2
地域と病院をつなぐ外来看護	12月5日	1
教育担当者研修	11月15日、18日	1
看護補助者活用推進研修	6月25日	1
看護補助者活用推進研修	2月13日	1

<神奈川県立病院機構 看護職員研修>

コース名	日 程	会 場	人数
医療安全	6月14日 11月8日	神奈川県立病院機構本部	4
看護倫理・臨床倫理	6月24日 10月21日	神奈川県立病院機構本部	5
人材育成	6月10日 10月18日	神奈川県立病院機構本部	3
問題解決・リーダーシップ	6月17日 10月28日	神奈川県立病院機構本部	2

<神奈川県立病院機構 看護職員交流研修>

場 所	研 修 内 容	日 程	人数
神奈川県立精神医療センター	看護師実務研修	2019年1月～12月	1

<交流研修>

研 修 場 所	研 修 内 容	日 程	人数
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	ステップⅣ研修	8月13日	1
神奈川県立こども医療センター	ステップⅣ研修	9月3日	1
厚木市立病院	看護科長研修	9月24日	1
小田原市立病院	看護科長研修	9月25日	1
秦野赤十字病院	看護科長研修	10月4日	1
東京慈恵医科大学葛飾医療センター	看護科長研修	10月11日	1
厚木市立病院 患者支援センター	看護科長研修	10月29日	1
伊勢原協同病院	看護科長研修	10月29日	1
南足柄市訪問看護ステーション	訪問看護ステーション研修	7～9月 (各1日)	4
足柄上医師会訪問看護ステーション	訪問看護ステーション研修	7～9月 (各1日)	3
小田原医師会訪問看護ステーション	訪問看護ステーション研修	7月～10月 (各1日)	3
訪問看護ファミリー・ホスピス小田原	訪問看護ステーション研修	7～9月 (各1日)	3

<公開授業、施設見学>

研 修 場 所	研 修 内 容	日 程	人数
済生会横浜市東部病院	特定行為業務体制見学	9月13日	2
小田原市立病院	認知症ケア加算体制見学	9月25日	1
秦野赤十字病院	手術室体制見学	10月4日	1

＜その他研修等＞

主 催	研 修 名	日 程	人数
日本看護協会	新たな認定看護師制度に関する説明会	5月22日	1
神奈川ストーマ研究会	第35回神奈川ストーマリハビリテーション講習会	7月13日、 14日、15日	1
日本臨床看護マネジメント学会	重症度、医療・看護必要度院内指導者研修	6月30日	3
公益財団法人かながわ健康財団	神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	7月16日、 29日、 8月28日	2
神奈川県	神奈川災害研修	7月26日	2
関東 JPTEC	第53回湘南 JPTEC プロバイダーコース	9月29日	2
神奈川県歯科医師会	医療分野における未病改善のためのオーラルフレイル対応型指導者育成研修会	10月16日	1
日本施設基準管理協会	施設基準読み解きセミナー	10月25日	1
神奈川県看護部長会	地域包括的視点に基づいた創造する医療・介護・福祉の連携と管理をめざして	11月14日	1
神奈川県歯科医師会	医療分野における未病改善のためのオーラルフレイル対応型指導者育成研修会	11月20日	1
神奈川県看護協会	診療報酬改定のポイント	11月29日	3
県 DMAT	DMAT - L 養成研修	12月13日、 14日	2

研修等受入実績

<看護職員交流研修等>

所 属	研 修 内 容	日 程	人数
神奈川県立精神医療センター	看護師実務研修	2018年10月～ 2019年11月	1
神奈川県立精神医療センター	看護師実務研修	2019年4月～ 2020年3月	1

<県西地区インターンシップ>

参加者	小田原高等学校1年生 1名 山北高等学校 3年生 1名
日 程	8月6日～8日 3日間
目 的	・医療現場について学ぶ体験を通して、医療職に魅力を持ち、将来の職業選択につながる ・患者と研修者の安全を守った研修環境を整える
内 容	体験（病棟と手術室）

<高校生インターンシップ>

参加者	新名学園 旭丘高等学校 3年生 3名
日 程	9月～11月（計9日）
目 的	・生徒が自ら職業を学び、実際に職業体験を行い、実社会で学んだことをレポート作成、相互に発表学習をする中で、職業準備（労働観の育成）をおこなう ・実社会での様々な職業を体験することで、その経験とこれまでの学んできた知識の統一を図る
内 容	看護師または看護補助者のシャドウイングおよび一部体験（ベッドメイキング等） 多職種（薬剤師、管理栄養士、放射線技師、臨床検査技師）のシャドウイング

<その他>

主 催 施 設	研 修 名	日 程	人数
神奈川県立平塚看護大学校	臨地実習にむけた専任教員の病院研修	4月24日	1

施設見学等受入実績

<インターンシップ>

	日 程	人数	参加者の在籍校
第1回	8月2日	43	神奈川県立平塚看護大学校、静岡県立看護専門学校、神奈川県立横浜看護専門学校、おだわら看護専門学校、厚木看護専門学校、たまプラーザ看護学校、神奈川県立保健福祉大学
第2回	2月29日	0	中止
第3回	3月23日	0	中止

<病院見学>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	1	1	1	2	5	0	0	0	0	0	0	5	15

かもめのたまご計画（就職前支援）開催実績

対象者	当院の就職内定者（自由参加）
日 程	8月1日、3月13日（中止）
目 的	入職前に新入職者同士の顔合わせができ職場環境を知ること、入職に対する不安が軽減する
参加者	第1回（8月1日）：8名
内 容	第1回（8月1日） ・顔合わせ、自己紹介 ・学習支援eラーニング（看護技術、国家試験過去問題集）の紹介 ・スキルラボ（演習室）の紹介 ※12月～1月にかけて、看護師国家試験の模擬試験を通信教育で実施

復職支援研修開催実績

対象者	復職や転職を検討中の方、技術に不安がある方、最新の医療の動向に興味のある方
日 程	9月17日、10月1日（全2回）
参加者	1名
目 的	潜在看護師や転職を考えている看護師が医療の現状を知り、看護技術の再学習を行うことで、復職を前向きに考えてもらう
内 容	講話：1. 医療・看護・福祉の動向 2. 安全対策について 最新の知識、事故の種類と予防策 3. 感染対策について 最新の知識、標準予防策と感染経路別対策、オムツの取り扱い 病院見学：シャドウイング 演習：吸引、静脈穿刺（留置針）、点滴管理（輸液、輸液ポンプ）

2019

– 79 –

10 助産関連業務

助産師は院内助産の実施に伴い、満足度の高いお産ができることを目的とした妊婦健診と保健指導（助産師外来）や母乳育児の支援として母乳育児外来や相談業務を行い、出産前から後まで継続した支援を行っている。

区分 年度	院内助産	助産師 外来	ペア クラス	母乳育児 外来	おっぱい 大好き 倶楽部	産後育児支 援のための 電話訪問	骨盤体操 クラス
平成29年度	44人	470人	67人	102人	12組	21人	8月～開始 33人
平成30年度	53人	565人	66人	134人	16組	※	67人
令和元年度	29人	333人	59人	122人	39組	※	25人

※ 産後2週間目の検診を開始したため電話訪問を中止とした。

1 1 各種活動報告

(1) 感染対策会議（感染管理室）活動報告

院内感染とは医療機関において患者が現疾患と別に新たに得た感染症や職員が医療機関において感染した感染症のことである。当院では、院内感染防止のため①スタンダードプリコーション及び感染経路別予防策の実践②感染情報を共有③感染症発生状況の報告、分析、評価、この3点の考え方を基本とした感染対策を行い、患者・全職員・地域を含めた安全な環境確保を図る視点から感染防止に取り組んでいる。

感染管理室は感染管理室長（副院長・感染制御医師）、感染管理室室長補佐（内科医師・感染制御医師）1名、室員（感染管理認定看護師）1名で構成し活動している。

1. 感染防止対策に関する診療報酬について

感染防止対策加算1・地域連携加算を継続算定し、陽風会高台病院、財団報徳会西湘病院、綾和会間中病院と連携し、合同カンファレンスを4回/年実施した。地域連携加算相互評価では、平塚共済病院を当院が評価し、当院は湘南藤沢徳洲会病院による評価を受け、総合評価は「A:適切に行われている」であった。平成30年度より抗菌薬適正使用支援加算の新設により、抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship team,AST）の活動を開始した。

2. 神奈川県立病院機構感染防止対策会議（4回実施/年）

神奈川県健康医療局保健福祉部県立病院課担当、県立病院機構本部職員と6病院（当院・こども医療センター・精神医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター・神奈川リハビリテーション病院）の感染担当で、感染防止対策の推進に向けて情報共有、感染に関する教育の検討などを行った。

3. 感染対策会議（定例12回実施/年、臨時会議4回実施）

院内感染防止、感染症発生時の措置及び感染対策を推進する組織に関して必要な事項を定める会議である。感染制御チーム（Infection control team,ICT）ミーティングの報告や感染リンクナース会議の報告を受け、当院の方針を決定した。臨時会議ではインフルエンザ対策、新型コロナウイルス感染症対応等について検討した。

4. ICT ミーティング（51回実施/年）・AST ミーティング（51回実施/年）

メンバー構成は、感染管理室長、室長補佐1名、臨床検査技師（感染制御認定臨床微生物検査技師）1名、薬剤師（感染制御認定薬剤師）1名、事務職員1名、室員1名の計6名である。毎週木曜日にミーティングを開催し、血液培養結果検討、耐性菌検出者検討、抗菌薬の適正使用及びケースラウンド、院内ラウンドを実施した。院内感染防止対策マニュアルの改訂、新型インフルエンザ等対策、新型コロナウイルス感染症対策、結核接触者健診、その他の感染対策を検討し、感染対策会議に提案した。

5. その他

	項目		今年度	前年度	備考
①	耐性菌サーベイランス	MRSA（感染患者割合）	1.02	2.50	(延べ入院患者に対する感染患者数×1000)
②		ESBL（感染患者割合）	1.32	2.36	
③	血液培養件数		2121 件	2050 件	
④	血液培養 2 セット率		98.0%	99.1%	
⑤	特定抗菌薬届出提出率		94.1%	96.7%	
⑥	バンコマイシン治療薬物モニタリング (TDM)		25 名	35 名	
⑦	職員インフルエンザワクチン接種率		90%	89%	H30 年度 438 名接種
⑧	院内研修受講者数（延べ人数）		1866 名	1762 名	
⑨	院内研修実施回数		25 回	23 回	
⑩	感染対策便り発行		11 回	12 回	基本は月 1 回の発行

- ・サーベイランスは、①②に加え、厚生労働省院内感染防止対策サーベイランス（JANIS）検査部門・全入院患者部門及び手術部位感染（SSI）部門に継続参加した①②感染率は、新型コロナウイルス感染症対策に関連した入院患者の制限が影響していると考えます。
- ・平成 30 年度より抗菌薬適正使用支援チームが活動しており、前年度に比べて③は増加したが、④が低下した。血液培養 2 セット実施について推進していく。
- ・季節性インフルエンザ対策は、「神奈川県インフルエンザ定点報告数」と院内の入院患者状況から面会者にサージカルマスクの着用を義務付け、「咳エチケット」ポスター掲示等で啓発した。12 月中旬から院内面会禁止とした。2 病棟で感染拡大を認め、1 週間程度の病棟閉鎖を実施した。院内発生患者 23 名、予防内服患者 38 名、職員の予防内服 115 名であった。その後は、感染拡大はなかった。面会禁止に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で継続となった。
- ・結核対策では、3 件の事例に対し、延べ 13 名に接触者健診を実施した。
- ・院内研修では、非常勤職員や変則勤務者などが参加できるように、DVD 研修等を取り入れた。看護職には、e ラーニングを用いて標準予防策の学習を行い、手指衛生の推進を図った。

<院内研修>

主な研修テーマ（一部抜粋）		
新入職者等研修	新型インフルエンザ対策	結核の診断・治療・検査
泌尿器科軟性鏡洗浄手順	院内感染対策について	抗菌薬関連腸炎の診断と治療
肝炎について	針刺し・切創、血液曝露予防	新型コロナウイルス感染症

<院外研修>

施設	研修内容
神奈川県立中井やまゆり園	インフルエンザ・感染性胃腸炎
救急救命士	感染対策の基本

(2) 医療安全推進活動報告

- 医療安全研修は、技術演習、医療機器取り扱いと管理を中心に研修を実施した。全職員の84.5%（前年度83.9 +0.6%）が10ポイントの取得に至った。
- 医療安全マニュアルの見直しを行い、原理原則に基づく安全行動の実施を推進した。今後の課題はアレルギー情報収集と電子カルテでの情報の一元化、説明書・同意書の書式統一の検討、安全マニュアルの整備である。
- 電子カルテシステムダウン時の運用基準を周知し紙運用対応の整備を行った。紙運用書類を扱った経験のない職員が増えていることを踏まえ、書類の使用手順作成と紙運用書類を整備する。
- 患者誤認は前年度の約半数に減少した。H30 年度に患者認証システムが導入され、リストバンド認証による指示の確認が周知された結果と考える。
- 転倒・転落については前年度より 12 件増加した。転倒・転落発生率は0.41%増加、レベル2以上の発生率は0.21%増加した。転倒・転落防止ワーキングを立ち上げ、37の転倒・転落アセスメントスコアの評価項目から、7項目の転倒・転落の有無と関連があるアセスメント項目の抽出を行った。次年度は結果をもとに取り組み、成果を出す。
- 患者に適したベッド周囲環境の整備として、環境整備と離床センサーの電源入れ忘れ防止に努めた。
- せん妄を予防する眠剤の使用法の標準化に取り組んだ。ベンゾジアゼピン系睡眠薬を使用しない薬剤での検討を進め、ベルソムラを使用した不眠時指示の施行を開始した。次年度は効果を評価する。
- 離院・離棟時の対応の周知を図った。各病棟でマニュアルに沿った対応ができるようになった。

① 会議の開催

医療安全管理会議 毎月1回 第4水曜日 / リスクマネジメント会議 毎月1回 第3金曜日に開催
月毎のヒヤリハット・アクシデント報告、医療安全巡回と報告（6月、11月、2月）、事例検討（7月、10月、12月、2月）、医療安全推進ニュースの検討、医療安全マニュアルの見直し、医療安全対策地域連携相互評価の報告、医療安全推進会議及び医療安全ワーキングの報告、医療安全週間開催と実施報告

② 研修活動

	研修区分	対象	内 容	開催回数	参加 延べ人数
1	医療安全研修	全職員	薬品の安全管理	1	55
		全職員	ハミルトン勉強会 呼吸器モードの説明	1	24
		全職員	移乗動作の基本	1	6
		全職員	高機能エアマットレスの取り扱い方法	1	160
		看護補助者	看護補助職員研修	1	42
		医師・看護師	経鼻栄養チューブの挿入と管理	1	40
		全職員	ImSAFERの手順を用いて患者誤認事例を分析し改善策を話し合う研修	1	11
		全職員	JPTC勉強会	1	9
		全職員	2A病棟 ImSAFER分析	1	8
		全職員	急変時シミュレーション	1	16
		全職員	5A病棟 ImSAFER分析	1	12
		全職員	弾性ストッキングの正しい使用方法について	1	31
		医師・看護師	CVカテーテルについて ガイドラインを含めて	1	59
		全職員	フットペダルの正しい使用方法と管理	1	18
		全職員	BLS講習会	1	23
		全職員	BLSシュミレーション	1	39
		全職員	医療倫理について ～患者・家族に寄り添うために～	1	48
		全職員	BLS救急時対応シュミレーション	1	19
		全職員	コンプライアンス研修	1	32
		全職員	血液製剤の取り扱いと注意点 輸血副作用	1	11
		全職員	3A病棟 ImSAFER分析	1	8
		全職員	火災初期対応机上訓練	1	16
		全職員	窒息時の急変時対応 事例検討会	1	13
2	医療安全研修 セクション共同開催	全職員 一部対象限定 看護職員 研修医	エンタビオについて 試食会 ユマニチュード勉強会 褥瘡対策 認知症患者の意思決定支援 事例検討 分娩入院時の対応 心筋シンチ勉強会 内視鏡機器取り扱い 新生児の観察 熱中症 ACLS ドレーンと術後合併症 ネーザルハイフローの取り扱い 内視鏡用手圧迫法 IABP・PCPSの管理 人工肛門造設患者の病態と治療 口腔ケア勉強会等 計40研修	40	810
3	医療安全・感染防止研修	感染症対策委員会活動報告参照			
4	リスクマネジメント会議	会議構成員	リスクマネジメント会議の事例検討	4	63
5	採用時研修 (オリエンテーション)	転入・新採用職員 研修医	転入・新採用職員研修医採用時研修	2	79
		中途採用	中途採用者研修	1	4
6	DVD研修	全職員	医療安全DVD視聴	1	229

③ 医療安全週間（期間：令和元年11月6日～11月12日）

職員の医療安全に対する意識向上と、患者や家族等来院者の医療安全活動への参画を推進するために開催した。

- ・近隣児童生徒の絵画コンクール（応募作品8点）
- ・各部門による医療安全取り組みの展示（テーマ：正しい方法で患者さんを確認します）
- ・参加型イベントは手洗いチェッカーを使用した「正しい手洗い」

④ 令和元年度ヒヤリ・ハット事例及びアクシデント報告

神奈川県立病院機構においては、ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントの内容に応じて、そのレベルを以下のように設定しており、当院もそれに準じてデータをまとめた。

ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントの分類レベル指標

区分	レベル	内 容
ヒヤリ・ハット	レベル0	間違ったことが発生したが、患者には実施されなかった場合
	レベル1	間違ったことが実施したが、患者には変化が生じなかった場合
	レベル2	実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった影響を与えた可能性があり、観察の強化や検査の必要性が生じた場合
	レベル3	a
b		実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった若しくは予期していたものを上回る何らかの変化が生じ、濃厚な処置・治療の必要性が生じた場合
アクシデント	レベル4	実施された医療又は管理により、患者の生活に影響する予期しなかった若しくは予期していたものを上回る高度の後遺症が残る可能性が生じた場合
	レベル5	実施された医療又は管理により、予期せず患者が死亡した場合

ア 全体報告数（表1）

レベル0及び1が1,553件で前年度より221件減少し、レベル2以上が482件で前年度より116件（発生率は6.6%）増加した。特にレベル2においては104件増加しており、事象内訳では転倒・転落や軟膏処置等を必要とした褥瘡報告が増加している。アクシデント報告件数はレベル3bの3件であり、いずれも転倒・転落による骨折であった。

表1 インシデント・アクシデント年度別報告数

区分	レベル	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
ヒヤリ・ハット事例	0	303	1,514	285	1,774	273	1,553
	1	1,211		1,489		1,280	
	2	181	204	348	366	452	482
	3a	21		17		27	
アクシデント	3b	2		1		3	
	4	0		0		0	
	5	0		0		0	
合 計		1,718		2,140		2,035	
レベル0.1発生率 ※1		88.1%		82.9%		76.3%	
レベル2以上発生率 ※2		11.9%		17.1%		23.7%	

※1 レベル0, 1以上報告数/全体数

※2 レベル2以上報告数/全体数

イ 事象別事故報告（表2）

前年度と同様、療養上の場面が756件（+91件）37.1%と最も多く、うちその他については291件（+100件）14.3%で前年度より大きく増加した。内訳は軟膏処置等を必要とした褥瘡関連報告が137件と多く課題である。ドレーン・チューブ類使用・管理は507件（－3件）24.9%、転倒・転落は289件（+14件）14.2%であった。

表2 事象別事故報告件数

事象	①令和元年度		②平成30年度		①－② 件数
	件数	構成比	件数	構成比	
指示・情報伝達	40	2.0%	67	3.1%	－27
薬剤（処方・与薬・調剤・製剤管理）	350	17.2%	452	21.1%	－102
注射・点滴	120	5.9%	162	7.6%	－42
内服薬	213	10.5%	254	11.9%	－41
その他	17	0.8%	36	1.7%	－19
輸血	10	0.5%	9	0.4%	1
治療・処置・診察	52	2.6%	84	3.9%	－32
手術	36	1.8%	54	2.5%	－18
麻酔	4	0.2%	3	0.1%	1
その他治療	2	0.1%	2	0.1%	0
処置	9	0.4%	16	0.7%	－7
診察	1	0.0%	9	0.4%	－8
医療用具（機器）使用管理	41	2.0%	25	1.2%	16
ドレーン・チューブ類使用・管理	507	24.9%	510	23.8%	－3
検 査	235	11.5%	256	12.0%	－21
療養上の場面	756	37.1%	665	31.1%	91
転倒・転落	289	14.2%	275	12.9%	14
給食・栄養	176	8.6%	199	9.3%	－23
その他	291	14.3%	191	8.9%	100
その他	44	2.2%	72	3.4%	－28
合 計	2,035	100.0%	2,140	100.0%	－105

ウ 時間帯別事故割合

時間帯別では、8～9時台、次いで10～11時台、12～13時台と午前中から昼にかけて多く、勤務交代や検査・処置、食事時間の移乗や与薬などケアが重なる時間帯である。16時～23時までの事象件数は減少傾向で、今年度より看護補助者夜勤が導入されたことが影響していると考ええる。

(3) クリニカルパス検討会議

平成 30 年度より、電子カルテ運用となり、検討・修正を実施した。
使用実績は、1433 件であった。

令和元年度 クリニカルパス使用実績

診療科 名称	パス名称	件数	診療科 名称	パス名称	件数
総合診療 科	内視鏡的胃粘膜切除・粘膜下層剥離術	27	整形外科	橈骨遠位端骨折	25
	大腸内視鏡・粘膜切除術(1泊2日)	22		鎖骨骨折	14
	大腸内視鏡・粘膜切除術(2泊3日)	16		脊髄腔造影 頸椎 (整形外科)	7
	内視鏡的逆行性胆管膵管造影	6		足関節骨折	9
	腹部血管造影・肝動脈塞栓術	5		頸椎手術(整形外科)	4
	内視鏡下胃瘻造設・交換術	2	泌尿器科	前立腺針生検	77
	内視鏡的大腸粘膜剥離術	2		経尿道的膀胱手術	76
	ラジオ波焼灼術・経皮エタノール注入療法・肝生検	1		経尿道的前立腺切除術	29
	糖尿病2週間教育入院	1		排尿指導	20
	待機の食道静脈瘤結紮術(EVL)	1		局所麻酔下尿管ステント挿入・交換術	15
循環器科	心臓カテーテル検査	85		排尿指導 日帰り	14
	ペースメーカー新規植え込み	18		腰椎麻酔下尿管ステント挿入・交換術	12
	経皮的冠動脈形成術(PCI)	13		前立腺針生検+膀胱鏡	6
	ペースメーカー電池交換	10		結石破碎術	7
外科	成人鼠径ヘルニア根治術(前日) 最新版	102		前立腺全摘出術	3
	大腸癌	48		局所麻酔下尿管ステント挿入・交換術	2
	腹腔鏡下胆嚢摘出術(前日入院) 最新版	43		前立腺生検(膀胱鏡含む) 脊椎麻酔	2
	胃がん	25		腎摘出術	1
	虫垂炎手術(前日入院)	9		前立腺生検(膀胱鏡含む) 全身麻酔	1
	自然気胸	7	神経内科	内視鏡下胃瘻造設・交換術	2
	乳癌手術(前日入院)	7		脳血管撮影	1
	成人鼠径ヘルニア根治術	5	脳神経外 科	腰椎手術(脳神経外科)	27
整形外科	上肢骨折一般(左右なし、XPなし)	51		脊髄腔造影(脳神経外科)1泊2日	26
	大腿骨近位部骨折 観血の整復固定術	95		手根管症候群手術	20
	上肢抜釘術	40		脳血管撮影	19
	大腿骨頸部骨折 人工骨頭術	60		慢性硬膜下血腫当日用	18
	下肢抜釘術(左右なし)	26		頸椎手術(脳神経外科)	7
	腰椎手術(整形外科)	25	産婦人科	産褥クリニカルパス	28
	人工膝関節置換術	43	眼科	白内障手術(PEA+IOL)	94
	脊髄腔造影 腰椎 (整形外科)	21	皮膚科	帯状疱疹	24
	人工股関節置換術	27	集計		1,433

(4) 災害医療対策室

救急医療の現状については、第3章患者の概況「救急患者取扱状況」を参照。
研修・訓練等の取組みについては次のとおりです。

①院内防災訓練

大規模地震の発生を想定したトリアージ訓練及び、実態に則した設定での消防訓練を実施した。
(平成31年4月1日～令和2年3月31日 計6回 参加者延 333名)

②院内実災害対応

台風19号における災害対策本部活動

活動内容:大雨洪水被害を想定し、院内体制の整備、水囊の配置、情報収集、院内巡回等を行う。

③災害時派遣医療チーム(DMAT)活動

・令和2年2月7日、16日 ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス陽性患者搬送業務
DMAT 計2隊(隊員内訳 医師3名、看護師4名、業務調整員3名(延人数))

場所:横浜港大黒埠頭

④DMAT 訓練、研修等

・令和元年6月18日～19日 統括 DMAT 技能維持研修参加 4名

場所:国立病院機構災害医療センター

概要:DMAT 隊員の災害医療の知識・技術の維持、資質の向上を図るため、継続した研修

・令和元年7月25日 令和元年度神奈川県災害時医療救護活動研修会参加 2名

場所:神奈川県総合医療会館

概要:災害時における医療の基礎的な知識や考え方を、実践的な災害対応の研修

・令和元年8月31日 ビッグレスキューかながわ(神奈川県・伊勢原市合同総合防災訓練)

DMAT1隊、DMAT・DMAT-L 混合1隊参加

場所:東海大学医学部附属病院、秦野赤十字病院、平塚市民病院、伊勢原市総合運動公園

概要:現場救護所の運営訓練、DMAT 活動拠点本部の運営訓練、傷病者の搬送訓練

・令和元年9月7日 大規模地震時医療活動訓練 DMAT1 隊参加

場所:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

概要:首都直下型地震における具体的な応急対策活動に関する DMAT の参集、活動、消防・警察等、他機関と連携した広域医療搬送等実動訓練

・令和元年12月13日～14日 DMAT-L 隊員養成研修 3名受講し修了(医師1名・看護師2名)

・令和2年1月23日 DMAT 自衛隊実機訓練 DMAT1 隊参加

場所:群馬県(相馬原駐屯地)

概要:災害時における患者の広域搬送を自衛隊実機(CH-47)に搭乗し機内での活動訓練

(5) 褥瘡対策会議

褥瘡対策チーム活動

院内褥瘡発生患者における褥瘡対策の課題の 1 つに、患者個々に合わせた体圧分散寝具の選択（エアマットの機能設定等）がある。今年度は、体圧分散寝具（高機能エアマットレス等）の研修会を全 3 回開催した。その結果、褥瘡発生後エアマットレスに変更した事例は、昨年度 29 件から今年度 10 件に減少した。院内発生者の割合は、+0.15%となったが、早期発見（浅い褥瘡が 9 割以上を占める）により、早期介入・治癒につながっている。褥瘡発生増加の背景として、入院数に対する褥瘡危険因子保有者の割合、平均年齢ともに増加傾向がある。

平成 30 年度以降、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）とスキン・テアの周知により報告が定着した。MDRPU1.3%（前年+0.7%）、スキン・テア 1.8%（前年+1.5%）は、ともに上昇した。令和 2 年度は、各セクションの現状分析をもとに、課題点を見つけ施策立案を行っていく。

褥瘡関連データ

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
褥瘡危険因子保有者数	2,172 名	2,501 名	2,432 名
褥瘡有病者数	211 名	255 名	282 名
院内発生(自重褥瘡)	73 名	81 名	81 名
院外発生	140 名	177 名	123 名
入院数に対する褥瘡危険因子保有者の割合	40.5%	44.6%	46.8%
入院数に対する褥瘡有病者の割合	3.9%	4.6%	4.1%
院内発生者(自重褥瘡)の割合	1.4%	1.4%	1.55%
褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数	1,009 名	1,003 名	885 名

(6) ボランティア活動報告

5 団体が定期的に活動している

団体名	活動日	活動内容
病院ボランティア会 ランパス	毎週月曜日 13:30～	移動図書、外来本棚整理、病棟患者対応
松田絵手紙の会	第 4 金曜日 14:00～	絵手紙作成
受付介助ボランティア	月～金曜日 (平日のみ)	外来受付介助
写真掲示ボランティア	随時	2 号館渡り廊下に季節の風景写真を掲示
絵本と夢のおはなしボランティア	隔週木曜日	大人の絵本の読み聞かせと、スピリチュアルケア師による傾聴

(7) 臨床病理検討会 (CPC)

第63回 CPC 令和2年1月30日 16時00分より 研修室1

総合診療科 高橋 幸大先生 研修医 中原 江梨先生 病理診断科 青木 一郎先生 亀田 陽一先生
インフルエンザ肺炎で入院し、退院調整していたところ突然死した症例

出席者 29名

第64回 CPC 令和2年2月6日 16時00分より 研修室1

総合診療科 岩渕 敬介先生 研修医 井上 真光人先生 病理診断科 奥寺 康司(横浜市大)先生
「意識障害と血圧低下にて入院後、急変し死に至った頸部膿皮症の一例」

出席者 14名

(8) 「医学講座」・「出前講座」

医学講座・出前講座企画運営会議

令和元年度 地域住民対象「医学講座」「出前講座」開催実績

回	日時	テーマ	講師	会場	対象
医学 第34回	6月29日(土) 14:00～16:00	「備えあれば骨元気！ ～人生100歳時代に備える～」 ①「骨・関節の衰えは、寝たきり への危険信号」 ②「転ばぬ先の食事と運動」	病院長 牧田浩行 リハビリテーション室 PT 武田知仁	開成町 町民センター 3階大会議室	市民・町民
医学 第35回	10月10日(木) 14:00～16:00	「口からの健康予防 ～人生100歳時代に備える～」 ①「オーラルフレイル「口の衰 え、放置していませんか？大変な ことになりますよ！」」 ②「未病と生活習慣病予防～しっ かり食べて運動しよう～	歯科口腔外科 大橋伸英 副院長 加藤佳央	南足柄市 文化会館小ホール	市民・町民
出前 第1回	6月24日(月) 10:40～12:00	「子どもの病気や事故への対応に ついて」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	開成町民センター	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第2回	10月21日(月) 14:00～15:00	「内臓脂肪の悪影響について ～メタボリックシンドロームを理 解しよう～」	副院長 加藤佳央	開成町保健センター	開成町 健診結果配布される町民
出前 第3回	11月18日(月) 10:40～12:00	「子どもの病気や事故への対応に ついて」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	開成町民センター	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第4回	1月30日(木) 13:30～15:30	シニアセミナー 「オーラルフレイル」	歯科口腔外科 大橋伸英	南足柄市文化会館 大ホール	市内老人会の皆様
出前 第5回	2月21日(金) 10:00～12:00	「がん終末期支援 ～がんと共に家で暮らす～」	在宅訪問看護師 麻生みちる 緩和ケア認定看護師 桐生光代	山北町 健康福祉センター	元気で健康を楽しむ会
出前 第6回	2月25日(火) 14:00～17:00	健康保持増進講習会 「大腸がん検診～がん患者さんの復職 とその環境について～」	消化器内科担当部長 國司洋佑	おだわら市民交流センター 「UMECO」	地区地域の健康づくり関係者、 産業保健関係者、人事労務関係者